

校長室だより(No.32)

令和3年11月24日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

リサイクル活動とSDGs

11月7日(日)には、黒井小学校PTAの今年度2回目となるリサイクル活動が行われました。リサイクルボックスを多く見かけるようになりましたが地域の方にも協力いただき貴重な資金源となりました。

国際社会がSDGs(持続可能な開発目標)の達成など持続可能な社会の実現を目指す中、あらためてリサイクル活動の重要性を認識しています。特に新聞紙や雑誌、段ボールなどの古紙の再生については、SDGsとの関連性を認識しやすく、子どもたちにもわかりやすいものであると考えます。地域の方との連携も生み出しやすい共通言語ともいえるリサイクル活動を教育にうまく活用していきたいと考えます。

私たちの身のまわりには様々な種類の紙があります。学校では、教科書、ノート、画用紙、色紙、テストの紙、トイレットペーパーやティッシュペーパー、段ボール、模造紙、ポスター等々数え切れません。その使い道を大きく分けると

- ①記録する・・・教科書、ノート、画用紙、模造紙
 - ②ふき取る・・・トイレットペーパー、ティッシュペーパー、キッチンペーパー
 - ③包む・・・段ボール、包装紙
 - ④その他・・・色紙、工作用紙
- に分けることができます。

これらの紙を日本では1年間に1人約200キログラム使っています。体重40キログラムの小学生なら5人分となります。世界平均では、約56キログラムと日本の紙の使用がとて多いたことがわかります。

森林を資源とする最もポピュラーな工業製品といえば、紙ですから森林の保護や二酸化炭素の排出量の減少に向けた取組のためにも古紙を再利用(リサイクル)していくことが大切だと言えます。

いわゆる再利用(リサイクル)は、①利用する→②再利用に向けて保管する→③回収する→④選別してまとめる→⑤再生紙を作る→①利用するとなります。リサイクル活動は、この②～③の活動だということを子どもたちにも教えていくことが大切で、パルプ工場や古紙問屋などを見学に行ったときには、リサイクルのどの過程であるかを教えたものです。

古紙には、それぞれ活用のされ方が違うため分別する必要があります。新聞紙は新聞紙に生まれ変わります。雑誌は、新聞紙やお菓子の箱や絵本など、ペーパーバッグなどの雑紙は段ボール、段ボールは段ボールにといった具合です。この分別をしないと再利用できないことから普段から分別する習慣づくりも大切だと考えます。

ただ、においのついた紙やビニールとの複合材、緩衝材などは、再利用できないため混入することがないように気を付けてほしいと業者の方も言われていました。

- ①紙は捨てずにリサイクル
- ②古紙は種類ごとに分別
- ③再利用できないものは混ぜない

紙を多く使う日本人だからこそ、緑に恵まれた日本であるからこそ森林資源を大切にしていきたいと考えます。

(参考 公益財団法人 古紙再生促進センター)